

諸寺中

右前件の如く寺號存在之儀藩主より許可相成に付、文化の初宗榮寺・妙久寺の兩寺再興の事を出願せしかど、藩に於て許可なかりしとぞ。依りて宗榮寺の寺跡に三寶寺より小庵を造立して、宗榮庵と號し常題目堂となし、殊に其の地眺望宜しき故に一時繁昌せしかど、故ありて其の後此の庵を破却せりとぞ。又正徳五年に梓行せる六用集に、三月・十月廿八日卯辰宗榮寺大黒天祭。といふ事を載せたり。右宗榮寺に、さる名高き大黒天の像ありしと聞ゆ。

○誓願寺前

文政四年二月郡地之々所町奉行支配に成る時、卯辰村領新町は、川より南は卯辰西養寺前、川より北は卯辰誓願寺前とあり。明治四年戸籍編成の時、上小川町へ屬せしめたり。

○來迎山誓願寺

淨土宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基運譽壽光和尚、當地筋違橋に寺建立之處、藩の御用地に被召上、寛文十年より卯辰村請地に寺造立仕罷在。とあり。

○妙法山圓光寺

法華宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基、大永元年日存与申僧建立仕、瑞龍公越中に被爲成御座候節、守山・富山・高岡三ヶ所共に寺屋敷拜領仕造立罷在候。然處寛永十三年金澤へ引越、別所勘右衛門・坂田源兵衛・近藤新左衛門を以、寺屋敷拜領仕度旨訴訟申上候處、卯辰山唯今の寺屋敷百四十三步拜領被仰付、則右三人衆之折紙于今所持仕とあり。

○圓光寺觀音堂

此の觀世音の木像は、舊藩二世贈大納言利長卿の信仰し給へる守本尊にて、城内に安置し給ふ處、圓光寺へ預けられしとぞ。今縁起等の記録は傳來せずといへども、古き過去帳に如左來歴を書載せたり。

當寺開闢大永元年日存也。瑞龍院殿奉隨御在所、御在城三ヶ所并寺地拜領被仰付。高岡御在城之砌、御守本尊觀世音御預け被遊罷在候。其後寛永十三年に御當地に引越申時、別所勘右衛門殿・坂田源兵衛殿・近藤新左衛門殿を以、寺屋敷拜領仕度旨御訴訟申上候處、無相違唯今之居屋敷百四拾三步之所被下置、則右三人之衆折紙所持仕候。

慶安二年

當山四世日彦記

天保七年舊藩寄附の品等に付き、妙成寺迄書出したる書付寫如左。

御寄附物御尋に付、以書附御達申上候。

瑞龍院様御在城之砌に、御守本尊之開運觀世音菩薩御預け被爲遊候に付奉安置、其後寛永十三年御當地に引越申候。御實前にも御寄附物御座候様子に候處、寶曆九年大變之節寺類焼仕、右御尊像奉取除而已に而、御墨附等并御寄附物等の御書付共、不殘焼亡仕候。其已後者御寄附物無御座候。御祠損申候節御達申上候間、御修復宜敷様奉願上候。以上。

天保七年四月

金澤卯辰圓光寺

妙成寺御役僧

右觀世音の像は、丈け九寸許之木像にて、利長卿越中高岡御在城の頃、格別信仰し給ひし尊像なりとぞ。此の尊像に屬せし物品、色々寄附し給ふといへども、寶曆九年四月十一日金澤大火の節焼炎に罹り、悉く焼失すといひ傳へたり。

○長榮山妙雲寺

法華宗也。貞享二年の由來書に、當寺開基、元和四年に實相院日應与申僧建立仕置、當年六十八年に罷成。居屋敷地子地に罷有。と載せたるのみにて、外に來歴無之、寺院至于今小庵也。

○鳳榮山本光寺

法華宗也。本光寺縁起に云ふ。當寺開山隆聖人者、越中國射水郡淺井郷嶋村之産、而同國守護職桃井播磨守直常之族流也。幼而得度、學業日進。遂於京師開基本能寺。應永廿三年於本國淺井嶋村。更開一字號本光寺。云々。貞享二年の由來書に云ふ。當寺開基開祖日隆上人、生國越中中郡淺井嶋村に而出生。京都本能寺を開基致し、其後淺井嶋村は出生之地故、應永廿三年に越中國へ立歸、本光寺を開基致し、其後攝州に至り尼ヶ崎本興寺を開基致し、則於尼ヶ崎遷化仕。右三ヶ寺日隆開基之地に而、代々上人地に御座候。京都其外諸國より、一派之僧侶越中淺井嶋村之墓所に今に參詣仕候。瑞龍公守山御在城之時、於守山寺地拜領被仰付、其後富山の御移被成御座時、於富山寺地拜領。其後高岡に御移被成御座時、於高岡寺地拜領被仰付、又金